中学校　読書センター
研究発表２

足を運びたくなる魅力的な学校図書館を目指して
～本に親しみをもち、図書室に気軽に足を運ぶ生徒の育成～

蒲郡市立大塚中学校　渥美　佳世子

１　はじめに

本校は、朝の読書タイム、読み語りの会の先生による読み聞かせ会など、生徒が本に触れるための取り組みが多くある。また図書室には、学校図書館支援員と連携し、生徒の興味を引く本や、授業と関連する本を豊富に置いている。一方で、本が好きな生徒は限られており、またこのコロナ禍ということもあり、本に親しみをもったり図書室へ頻繁に足を運んだりする生徒は多くは見られない。2020 年 6 月（休校明け）～8 月までの 3 か月の図書室利用者は全校 145 名のうち、中１、57 人。中 2、16 人。中 3、2 人。合計 75 人という数字であった。

本校は１小１中の小さな学区である。生徒たちは、小学校から同じ仲間と過ごしてきたからこそ、周りの仲間に温かく、気心知れた仲間へ自分の思いも真っ直ぐに表現できる。そこで、本校の、本に触れるための様々な取り組みを生かしながら、生徒たち相互の思いを大切にした新たな取り組みを考えていけば、仲間と共に、本に親しむ機会が増え、図書室へ足を運ぶ生徒も少しずつ増えていくのではないかと考えた。

そして、研究主題「足を運びたくなる魅力的な学校図書館を目指して～本に親しみをもち、図書室に気軽に足を運ぶ生徒の育成～」を設定した。

２　研究の構想

（１）目指す生徒像

足を運びたくなる魅力的な学校図書館を目指して
～本に親しみをもち、図書室に気軽に足を運ぶ生徒の育成～
・「本を読もう」…本に親しみをもつ生徒
・「図書室に行こう」…図書室に気軽に足を運ぶ生徒

（２）研究の仮説

〈仮説１〉
生徒が様々な本に目を向けたり、おすすめの本を相互に紹介したりする機会を設ければ、本に親しみをもつだろう。

〈仮説２〉
生徒が「図書室に行きたい」と思えるような魅力的な企画を計画・実行したり、図書室の環境を整備したりすれば、生徒が気軽に図書室に足を運ぶようになるだろう。

（３）研究の手立て

〈仮説１の手立て〉

手立て１－①　本のあらすじと魅力紹介

手立て１－②　クラスでビブリオバトル

〈仮説２の手立て〉

手立て２－①　図書委員によるおすすめ本の展示と音楽部のミニコンサート

手立て２－②　図書委員によるおすすめ本の展示と先生方による絵本の読み聞かせ会

手立て２－③　学校図書館支援員と連携した図書室の環境整備

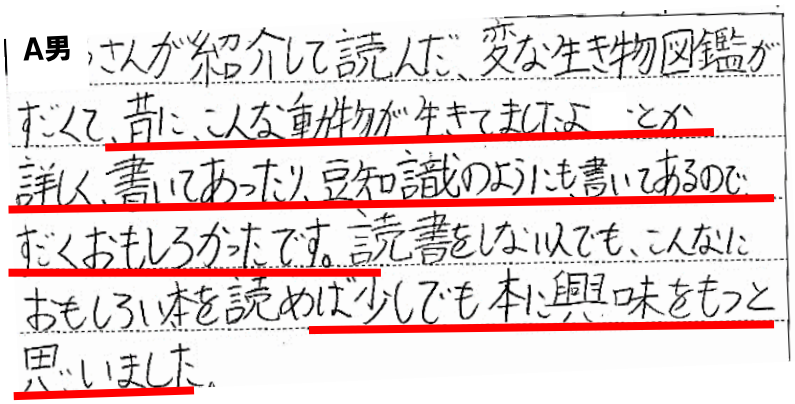
３　実践内容

手立て１－①　本のあらすじと魅力紹介

図書室への興味・関心を高めるために、まずは「本を読みたい」という生徒を増やしていくことが大切だと考えた。そこで、図書委員会で「本を読みたいという人を増やすためにはどうしたらよいか」を話し合った。仲間から本をすすめられれば、本を読みたいと思うきっかけになるのではという考えから、各クラスの図書委員がおすすめする本を選び、自分のクラスで、その本のあらすじと魅力を紹介するということになった。

国語科の先生の協力を得て、国語単元「読書を楽しむ」と絡めて、授業の中で、図書委員がおすすめ本のあらすじと魅力を発表する場をつくった（**資料１**）。自分のクラスの仲間が、本を手に取りページをめくりながら、あらすじやその本の魅力を紹介したことで、生徒たちは、自然とおすすめ本に目を向け、一生懸命に話を聞いていた。そして、簡単にではあるが、その本についての内容やおもしろさを理解したようで、図書委員の発表の後には、「〇〇さん（図書委員）がいちばん気になった生き物はどれですか？」「そのハンドボールの本を読んで実際に生かしていることはありますか？」などの質問や、「その本が実際に読みたくなった」といった感想が聞かれた。

【資料１　本のあらすじと魅力を発表する図書委員】



A男さんが紹介して読んだ、変な生き物図鑑がすごくて、昔に、こんな動物が生きてましたよ　とか詳しく書いてあったり、豆知識のようにも書いてあるのですごくおもしろかったです。読書をしない人でも、こんなにおもしろい本を読めば少しでも本に興味をもっと思いました。

【資料２　本のあらすじと魅力紹介　感想】

資料２は、紹介文を聞いた生徒の感想である。「A 男さんが～中略～昔こんな動物が生きてましたよとか詳しく書いてあったり、豆知識のようにも書いてあるのですごくおもしろかったです。（普段）読書をしない人でも、こんなにおもしろい本を読めば少しでも本に興味をもっと思いました」とある。図書委員が自分のクラスで、本のあらすじと魅力を紹介したことで、生徒たちは仲間が紹介する本に目を向け、その本のおもしろさに気づき、本に興味をもち始めたということが分かる。

手立て１－②　クラスでビブリオバトル

図書委員による本のあらすじと魅力紹介が行われ、生徒たちは少しずつ本に興味がわいてきた。次は、本への興味をより広げるために、全ての生徒が本を選び、仲間たちへ本の紹介をする活動をしたいと考えた。図書委員会と本校に勤務する学校図書館支援員（**５頁参照**）と相談し、クラスでビブリオバトルをすることに決めた。

ビブリオバトルとは、一人ずつお気に入りの本を持ち寄り、決められた時間でその本を紹介し、最後に「どの本が読みたくなったか」をきめる活動である。今回は、バトルの日を２日間設定し、１日目は、班の中で発表して“班の１位を決めるバトル”、２日目は、班の代表がクラスの前で発表をし、“クラスの１位を決めるバトル”を行うことにした。

生徒たちは、ビブリオバトルが予告され、開催当日までに各自で本を選んできた。家にある本でも学校にある本でもよく、ジャンルは問わない（ただし今回漫画はなし）という規定で行ったので、それぞれとても自由に楽しそうに本について考えていた。１日目は班の４～５人という少人数での活動ということもあり、和気あいあいとした雰囲気であった。厚い物語の本、外国の人の名言集、メディアで話題となっている人の本など様々なジャンルの本が紹介され、自然と多くの本に目を向けることになった。また、班内で気楽にそれぞれの本に関する感想や質問が飛び交っていた（**資料３**）。その一方、１位を決めるという目的があるので、楽しげな会話の中にも、友達の本の紹介を真剣に聞いている様子も見られ、本の魅力についてじっくり考える時間となった。２日目は、クラス全体の前で班の代表がもう一度、その本について紹介した。前日のビブリオバトルでは、うまく伝えられなかった点を見直し、説明を詳しくしたり、クラスのみんなに問いかけるような話を入れたりするなど、代表者の発表にはより工夫が見られた。聞く生徒たちも、１位を選ぶために、各班の代表者の発表を真剣に聞いたり、感想・質問を述べたりしていた。

【資料３　班でビブリオバトル中】

私は本が好きなので、いろいろな本を読んだことがあります。その中でビブリオバトルで使う本をどれにしようか、考えました。そして魔女の家という本に決めました。物語の展開がおもしろくみんなも楽しんでもらえると思ったからです。
ビブリオバトル本番では**C子**さんのカゲロウデイズの本が楽しく勉強できるなと思いました。自分の本を選ぶのも友達の発表を聞くのもいい時間でした。

【資料４　ビブリオバトル　感想】

資料４は、その日のＢ子の感想である。「ビブリオバトルで使う本をどれにしようか、考えました。～中略～ビブリオバトル本番では、Ｃ子さんのカゲロウデイズの本が楽しく勉強できるなと思いました。自分の本を選ぶのも、友達の発表を聞くのもいい時間でした。」とある。ビブリオバトルで、自分の本を選んで紹介するために様々な本に目を向け、考えたことが読み取れる。また、本番の発表では友達が紹介する本にも、魅力を感じていることが分かる。

Ｂ子がビブリオバトルで紹介した『魔女の家』という本はそのクラスで１位になった。ビブリオバトルで生徒たちが興味をもったのか、その後図書室にあるこの本は、図書室の貸し出しランキングで

１位になっていた。「本を読もう」という気持ちから「図書室へ行こう」という気持ちにつながってきたのだろう。

手立て２－①　図書委員によるおすすめ本の展示と音楽部のミニコンサート

本が大好きな生徒は、図書室によく来て何度も本を借りていく。また、**手立て１－②**の実践から、「図書室へ行こう」という気持ちになった生徒もいる。しかし、なかなか本に興味がもてない生徒は、図書室へも足が向かない様子であった。そのような生徒たちも図書室へ呼ぶためにどうすればよいのか、図書委員会で話し合ったところ、「図書室に行きたいと思えるような魅力的な企画を実施する」との意見が出された。話し合いの結果、図書室で「音楽部のミニコンサート」を開くことが決まった。本校の音楽部は弦楽器（マンドリン、ギター、コントラバス等）を中心に、心落ち着く音楽を奏でてくれる。その演奏は、まさに図書室にぴったりだと考えたからである。

【資料５　図書委員によるおすすめ本（ポップと共に）】

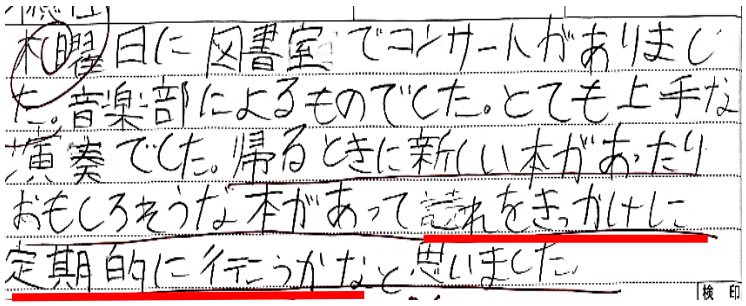
【資料６　音楽部のミニコンサート】

さらに、その企画のためだけの来室にならず、「また本を読みに図書室に行きたい」と思ってもらえるように、図書室には図書委員のおすすめ本（**手立て１－①本のあらすじと魅力紹介**で紹介したものとは違う本）を展示することに決まった（**資料５**）。

こうして、『図書委員によるおすすめ本の展示と音楽部のミニコンサート』という企画が計画された。図書委員が音楽部へ依頼すると、快く承諾してくれ、当日を迎えるまで準備をした。

各学年に分けて３日間のコンサート日が設けられた。コンサート当日は、とても多くの生徒が図書室に訪れ、音楽部によるしっとりした心落ち着く曲を聞いていた（**資料６**）。また、図書委員長が「図書委員たちがおすすめする本を、帰りに是非見ていってください。これを機会にこれからも図書室へ来てください」とあいさつをしたことで、コンサート帰りには、生徒たちは興味深く楽しそうに本を手に取る様子があった（**資料７**）。

【資料７　おすすめ本を手にとる生徒】


木曜日に図書室でコンサートがありました。音楽部によるものでした。とても上手な演奏でした。帰るときに新しい本があったりおもしろそうな本があってこれをきっかけに定期的に行こうかなと思いました。

【資料８　図書室ミニコンサートの感想】

資料８は、その日の生徒の感想である。「とても上手な演奏でした。（教室へ）帰るときに新しい本があったりおもしろそうな本があってこれをきっかけに定期的に（図書室へ）行こうかなと思いました。」とある。音楽部の演奏会をきっかけに、図書委員のおすすめ本に目を向け、「図書室に定期的に行きたい」という思いが強くな

ったことが分かる。

手立て２－②　図書委員によるおすすめ本の展示と先生方による絵本の読み聞かせ会

【資料９　読み聞かせに夢中になる３年生】

図書委員会で、「図書室に行きたい」という気持ちをさらに高める企画の話し合いがなされた。本校では毎年、読み語りの会から先生をお招きして、各クラスで読み聞かせを行っている。生徒たちはその読み聞かせをじっくりと聞き、本の世界を楽しんでいる。その活動をヒントにして「大塚中の先生たちの読み聞かせを聞きたい」という声が上がった。そして「本は長くなってしまうから、絵本はどうか」という意見も上がり、「先生方による絵本の読み聞かせ会」が行われることになった。また、今回も同じように、図書委員のおすすめ本も展示することに決まり、『図書委員によるおすすめ本の展示と先生方による絵本の読み聞かせ会』という企画が計画された。

学年に分けて３日間の読み聞かせ会が行われた。各学年に読み聞かせをするのは、それぞれ図書委員がリクエストをした教員だ。それぞれ、その学年の縁のある先生ということで、当日はどの学年の生徒もとてもわくわくしながら楽しみに図書室へ来ていた。絵本は、中学生にとっては対象年齢が少し低いのではという心配もあった。しかし、絵本の分かりやすい物語展開、大型絵本ならではの素敵な絵、先生方の読み方の工夫など、たくさんの魅力がつまっており、生徒たちは小さい子どものように、本の世界に心を踊らせ楽しそうに読み聞かせを聞いた。図書室には笑い声が響き渡り、明るい雰囲気に包まれていた（**資料９**）。

【資料 10　おすすめ本は貸し出し中】

帰りには、図書委員のおすすめ本を見ていく生徒が見られた。前回行われた『図書委員によるおすすめ本の展示と音楽部のミニコンサート』のときに比べ、おすすめ本はたくさん貸し出しされており、この展示でたくさんの生徒が本に興味をもち、図書室へ足を運ぶ回数が増えていると実感した（**資料 10**）。

手立て２－③　学校図書館支援員と連携した図書室の環境整備

蒲郡市は、各校に専任の司書教諭や学校司書の配置はない。しかし、小中学校全校に、学校図書館支援員が配置されている。市の図書館を委託管理する団体が担当し、各校を担当する支援員が決まっている。学校によって月あたりの派遣日数の違いがあり、複数校の掛け持ちという状況ではあるものの、各校の要望に柔軟に対応してもらえ、学校図書館の日常活動を大きく支えている。

【資料 11　分類表と整頓された本棚】

本校は週に２回支援員が来て、様々な活動をしている。支援員の主な活動は、図書室の環境整備である。図書室にある膨大な本の管理や整理、その時期に合った本の展示、図書委

員会のサポートなど、居心地の良い図書室になるための環境をつくる。膨大な数の本も、きれいに分類されているため、生徒たちはスムーズに本を手に取り、借りたり、返したりすることができる（**５頁 資料 11**）。

図書室入口付近の、生徒たちの注目を最も集める場所には、その時期の旬の本が展示されている。「人気本ランキング」「図書室に入った新しい本」「〇〇おすすめの本」「授業と関連する本」など、季節や話題、授業内容等に合った本があるため、図書室に入った生徒たちは、自然とその本を手に取ってみたくなるのである。また、図書委員が考えた企画と繋がった本の展示もされている。前述した『図書委員によるおすすめの本紹介と音楽部のミニコンサート』の期間には、音楽部が使っていた楽器にちなんで「マンドリンという楽器についての本」が並べられた。『先生方による絵本の読み聞かせ会』の期間には、「絵本コーナー（**資料 12**）」になっていた。そこでは、中学校の図書室には普段はなかなかない絵本を手に取り、楽しそうに読む生徒の姿が見られた（**資料 13**）。生徒が考えた企画内容と関連した本を展示することで、生徒の活動を支える。

【資料 12　絵本の読み聞かせ会後は絵本コーナーに変身！】

【資料 13　絵本を読む生徒】

上記のように、学校図書館支援員と学校が連携し、生徒の思いと繋がる図書室の環境がつくられることで、生徒にとって居心地の良い図書室ができていると考える。

４　研究の成果と今後の課題

〇図書委員が本のあらすじや魅力を紹介したり、全員でビブリオバトルをしたりしたことで、本に関心や親しみをもち、「本を読もう」とする生徒が増えた。

〇図書室で、「図書委員によるおすすめ本の展示」や「音楽部のミニコンサート」「先生方による絵本の読み聞かせ会」を行ったことで、多くの生徒が図書室へ足を運び、企画を楽しみつつ本を手に取るようになった。2021 年 4 月～6 月までの 3 か月の図書館利用者は中１、139 人。中 2、89 人。中 3、19 人。合計 247 人という数字であり、昨年度のよりも 172 人増えた。

〇学校図書館支援員と学校が連携し、生徒の思いが繋がる図書室の環境がつくられることで、生徒にとって居心地の良い図書室ができる。

〇生徒の思いや活動を軸にしながら、本校の教員（国語科の教員、音楽部の教員、読み聞かせをしてくれた教員…）や図書館支援員など、みんなで協力して本研究を実践できたことで、繋がりのある幅広い実践ができた。

●この取り組みを一度で終わりにするのではなく、より効果的・計画的に行えるように次年度以降も継続していけるようにしたい。

●これからも「生徒」「学校図書館支援員」「学校」の思いや繋がりを大切にしながら、様々な角度からの支援を模索していきたい。